

トップレベルの エキスパートを育てたい

専門学校アレック情報ビジネス学院 (青森県八戸市)

専門学校アレック情報ビジネス学院は、毎年多くの学生を地元八戸市の企業を中心に輩出しており、地元産業界の期待が高い。その期待に応えるべく、各分野のエキスパート育成に重きを置き、資格取得に力を入れている。OA事務科(医療事務)では秘書検定2級を卒業基準検定に設定し、事務職のエキスパート育成に役立てている。今回は、OA事務科の取り組みを中心に伺った。

専門学校アレック情報ビジネス学院。学生がビジネス社会にすぐに慣れるようにと、オフィスビルをモデルに設計された。景観賞を受賞したこともある

地元の期待に応えるために 専門知識とビジネスマナーの 習得は欠かせない

専門学校アレック情報ビジネス学院は、銀行や保険会社が立ち並ぶ大通りにある。8階建てでガラス張りの校舎はオフィスビルをモデルに設計されており、周囲の建物に溶け込んでいく。

オフィスのような雰囲気の中で学ぶのが、「ITエンジニア科」「情報ビジネス科」「OA事務科(医療事務)」「公務員科」の学生約1500名だ。八戸市内および近隣の高校出身者が多くいる。卒業後も地元での就職を希望する学生が大半を占め、昨年度は90%の学生が地元企業への就職を果たした。

地元企業を中心に高い内定率を維持できているのは、卒業後すぐに戦力となり得る人材育成に力を入れているためである。地元産業界の強い要望の下、昭和62年に創立された同校は、その期待に応えるべく専門知識の習得はもちろん、ビジネスマナーの習得を重視し、さまざまな取り組みを実施している。

ビジネスマナーの習得に向けたユニークな取り組みをご紹介します。
「ビジネスマナー週間(BMW)」は一週間にわたり、社会人として身に付けておかなければならないマナー

や立ち居振る舞い、言葉遣いなどを練習する期間である。学科・学年を問わず全学生が対象となり、皆、スーツ・バッジ・名札の着用が義務付けられている。

身だしなみのチェック項目は、ネクタイが曲がっていないか、靴のサイズやヒールの高さは適当か、髪は染めていないかなど多岐にわたる。立ち居振る舞いは、玄関でのあいさつと辞儀、廊下ですれ違うときの会釈などが指導の対象となり、厳しくチェックされる。

BMWについてOA事務科(医療事務)の田澤美由紀先生はこう話す。

「BMWは、本校が設立当初から実施している取り組みで、昨年度は5回実施しました。この取り組みの狙いは二つあります。一つは、社会で求められるマナーを身に付けてもらいたいということ。身だしなみや立ち居振る舞い、言葉遣いは、就職活動がスタートするまでに習得しておかなければ意味がありません。スーツをきちんと着用し、企業を訪問する際のマナーや立ち振る舞いを覚え、正しい言葉遣いを一日も早く身に付けるために、こうした期間を設けています。もう一つの狙いが、体調管理をすることの重要性を実感させることです。この期間中は、普段よりも遅刻や早退・欠席などに厳しく対応しています。高校までは「頭が痛いから学校を休みます」でもよかったかもしれませんが、プレ社会人として専門学校で学んでいる以上、それは許されません。社会人になれば周囲



秘書検定準1級に合格した苫米地春菜さん(左)と石塚岬さん。二人とも今年の3月、無事にOA事務科を卒業。今春から、苫米地さんは地元の有力企業に、石塚さんは地元の信用金庫に就職。新たな一歩を踏み出した



OA事務科の田澤美由紀先生
「学生からはよく、怖いと言われますが、指導には厳しさとメリハリが大切」と笑顔で話す



就職活動前に実施される就職研修の様子(左上)。ビジネスマナーを習得させるために、さまざまな取り組みを行っている同校。ビジネスマナー週間(BMW)では、学生は1週間にわたりスーツを着用し、マナーや立ち居振る舞いなどを練習。一人一人厳しいチェックが入る(左下)

から『体調管理ができていない』と言われ、評価が低くなるでしょう。社会に出るまでの2年間は、社会人になるまでの準備期間です。社会人になるという意識を育てることが重要だと思います。』

トップレベルの事務員を 目指してほしい!! そのために秘書検定を学ぶ

即戦力となる人材を育てるため、同校が重視する取り組みの一つに資格取得がある。言うまでもなく資格や検定は、学生自身の能力や努力の証しとなるもの。そのため各学科では卒業の最低条件となる「卒業基準検定」が設けている。卒業基準検定の他にも、難易度が高く、社会的に権威のある検定や資格の取得を目標に指導を行うなど、各分野でのエキスパート育成に余念がない。

卒業基準検定の一つに「秘書検定2級」を採用しているのがOA事務科(医療事務)だ。同科では1年次の「秘書学Ⅰ」で2級を、2年次の「秘書学Ⅱ」で準1級を学ぶ。なぜ秘書検定なのか。その理由を田澤先生はこう話す。

「秘書検定の内容を学ぶことで、事務処理の基本的な知識を身に付けることができるからです。当学科の学生は卒業後、一般事務員や医療事務員として活躍したいと考えています。『秘書にならないのに、なぜ秘書の勉強をするのか』と聞く学生がいます。確かに秘書検定は、

秘書職を目指す人が多く受験する検定ですが、学べる内容は電話応対・来客応対・文書作成など、事務職で役立つことばかりです。また、気遣いや同僚とのコミュニケーションも学ぶことができます。事務員は社内外にかかわらず、さまざまな人と接する機会が多いため、人付き合いについて学ぶことは大変重要です。』

もう一つの理由についてこう続ける。

「学生には、事務職のエキスパートとして活躍してほしいと思っています。秘書検定2級で事務の基礎を学び、準1級でさらに専門的な知識を身に付けることで、トップレベルの事務員になることが可能です。事務員としての仕事内容が評価されれば、秘書に抜てきされることもあります。つまり活躍の場が広がるということです。どのような仕事でも同じことは言えると思いますが、一つの仕事を極めることはさらなるステップアップにつながります。そのチャンスをつかむためには、周りよりもレベルの高い立ち居振る舞いや応対などのスキルを身に付ける必要があります。それを実現できるのが秘書検定の学習なのです。』

合格を目指すだけでなく、学んだことを最大限に生かし、ワンステップ上を目指してほしい。その思いで田澤先生は指導に当たっている。学生を優秀な事務員に育てるために、どのような指導を行っているのだろうか。

「秘書検定2級の内容を学ぶときに、準1級の内容も絡めて指導しています。準1級では選択



授業で学び身に付けたことは、オープンキャンパスの受付などでも発揮される(左上)
高校生や保護者に説明する学生(右上)
オープンキャンパスでビジネスマナーの授業を体験する高校生たち。「先輩みたいになりたい!」と入学してくる高校生も多くいるそうだ(右下)

問題だけではなく記述式の問題も多くなるため、自分で考え、書ける力を身に付けなければなりません。そのために、問題を解くときは必ず、なぜ不適当なのか、なぜ適当なのか、その理由を考えさせます。きちんと説明できなければ理解していることにはなりません。ですから、授業では学生を指名し、『納得できるように説明してください』と、自分の言葉で話させます。知識を身に付け、それをアウトプットできなければ意味がないのです。

2年間の学びで 無駄なことは一つもない!

田澤先生は準1級の知識だけでなく、準1級レベルの立ち居振る舞いを学生に要求する。その理由について次のように話す。

「1年次の年明け早々に、企業ガイダンスが始まります。そのときに、言葉遣いはもちろん、笑顔やお辞儀などの立ち居振る舞いがきちんとしてきていないと、企業の採用担当者の記憶に残りません。資料の受け渡しは丁寧に両手を使う。相手の目を見て、にっこりとあいさつする。こうした一つ一つの動作が、採用担当者によい印象を与え、顔を覚えてもらうことができます。『この学生は社会人としての資質を持っている』。そう思ってもらえるように指導し、学生に習得させることが私の大きな役目でもあります」。

こうした指導の成果は着実に出ている。

OA事務科の卒業生に話を聞いた。石塚岬さんと苦米地春菜さんは、今年の4月に社会人として新たなスタートを切ったばかりだ。二人とも1年生のときに秘書検定2級に、2年生の6月には準1級に合格している。

石塚さんは秘書検定の学習について「勉強を始めた当初は、初めて聞く言葉が多く戸惑いました。特に、職務知識は覚えるのが大変でした。過去問題を繰り返し解くうちに、できなかつた問題も解けるようになるなど、徐々に力が付い

ていった気がします」と振り返る。

苦米地さんは準1級の面接試験について「最初は状況対応が全くなできませんでした。これは練習するしかないと思い、クラスでグループを作って、受験生と審査員役に扮し、交代して練習しました。本番が近づくと、『首が曲がっている』『指先までまっすぐ』『お辞儀が美しくない』と学生同士の指摘が厳しくなりましたが、妥協せず練習したことが合格につながったと思います」と話す。

石塚さんは信用金庫に、苦米地さんは建築資材の総合商社に、それぞれ地元就職を果たした。同校での2年間を振り返りながら、今後の抱負を語ってくれた。

「田澤先生の指導は厳しかったけれども、無駄なことは何一つありませんでした。先生に質問の仕方をよく注意されたので、質問するときはちゃんと話の順番を考えてから話すようになりました。こうした意識は、上司への報告で生かすことができそうです」(苦米地さん)。

「年齢を問わず多くの人と接することが多い職場なので、アレックで学んだビジネスマナーや礼儀を存分に生かせると思います。窓口業務に就く予定なので、秘書検定で学んだ来客対応や人とのコミュニケーションの取り方などを生かし、先輩や同僚、お客さまとよい関係が築けるように頑張りたいです」(石塚さん)。

卒業生の活躍ぶりが、同校のさらなる厚い信頼と期待へとつながっていくに違いない。